

さいたま市と川崎市の防災都市づくりを紹介します



今後起こると言われている首都直下地震などの大規模災害に備えて、防災に着目した都市づくりを進めている「さいたま市」と「川崎市」。両市が策定し、推進する防災都市づくり計画の内容とその特徴について、ヌゥと川丸くんが分かりやすく紹介します！



さいたま市

防災“も”含めた都市づくり

さいたま市防災都市づくり計画

安全・安心のための防災“だけ”ではなく、利便性や快適性も備えた、防災“も”含めた総合的な都市づくりを、事前・復旧・復興という3つの視点で進めています。

PICK UP 準防火地域の指定拡大

「防災都市づくり計画」において災害リスクを分析した結果、大規模地震時に火災が発生した場合、広範囲に燃え広がる可能性のある延焼リスクの高い区域を抽出しました。事前の対策として延焼リスクの高い区域へ準防火地域の指定を進めることで、建築物の不燃化を促進し、延焼火災の拡大を抑制し燃え広がりにくい市街地にしていきます。

建築物の構造による燃え広がりイメージ



詳しくは市HPで
準防火地域の指定拡大 検索

準防火地域って、まちを燃え広がりにくするんだね！



川崎市

「減災都市づくり」と「復興都市づくり」

川崎市防災都市づくり基本計画

自助・共助・公助の連携、地域防災力の向上などによる被害の最小化や、早期復興への備えとして「減災」、「復興」の2つの視点から、災害に強い都市づくりを進めています。

PICK UP 地域住民との協働による防災まちづくり

減災都市づくりの重点的な取り組みの一つとして、火災延焼等による被害が広範囲に及ぶ地区において、「まち歩き」や「ワークショップ」等を通じて、地域住民の防災意識を向上させるとともに、それぞれの地区特性に応じた『地区防災まちづくり計画』を策定することで、地域住民が主体的に継続できる「防災まちづくり」を推進します。



みんなで考えると防災意識が高まっていいね！



お♥ま♥け情報 水兵帽がよく似合う、川崎港を代表するキャラクターの「川丸くん」。いかにも川崎っ子と思いきや、実は生まれはある南の海だそう。貨物船で昼寝していて、気が付いたら川崎港にたどりついてたんだって！

読者モニターが考える防災のこと



講師の東京大学加藤孝明先生

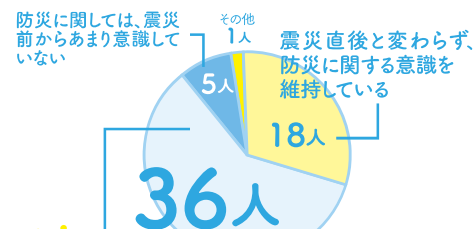
セミナーを受講してみた

平成27年8月、「防災の基本とこれからの防災まちづくりセミナー」が岩槻文化公園において開催されました。「さいたま市総合防災訓練」の一環として実施されたこのセミナーには読者モニターも参加し、普段は意識する機会のない「防災」について考えるきっかけになりました。

- 明日起こるか、あるいは30年後に起こるか分からない震災に対して、「息切れせず、長続きする防災」という発想は大変参考になりました。(佐瀬正俊さん)
- 本来は知りたくない災害リスク情報でも、それを知ること、事前に適切に備えることができるという「知ってるしあわせ」という言葉が印象に残りました。(佐々木みつるさん)
- 未曾有の災害に対しては今まで学んだことが通用しないばかりか、それがかえって固定的な考え方につながってしまうという「学びすぎは良くない」という言葉が、普段防災アドバイザーとして活動している立場からすると逆説的で勉強になりました。(吉野忠夫さん)
- 「自然災害には上限がない」や、「ゼロリスクはない」という言葉が印象に残りました。また、行政の資料を活用したり、地域でのコミュニティ形成を通じて備えることが大切だと感じました。(馬場陽子さん)

アンケートから

東日本大震災から5年が経ちますが、防災意識についてお聞かせください。(回答60人中)



震災直後に比べ防災に関する意識が薄れてきている

モニターの声▶自治会の防災訓練に参加する人が、今年、とても減りました。皆さんの真剣度も下がっているように思います。



ここは、災害発生時には物流コントロールセンターになるんです！

川崎市 & さいたま市

備えあれば

うれしいな

ヌゥと川丸くんが行く！
お互いの市が災害に備えていることってなんだろう？
防げるってなんだろう？を考えます

おなじみ！さいたま市PRキャラクターつなが電ヌゥです。今回は遠くまで来たよ！

川崎港のキャラクター川丸くんです！よろしくね！



写真：川崎市・東扇島東公園